

IV 講演

④『障害学生の就職の現状と傾向について』

有限会社 イフ総合研究所 管理本部 業務企画部
次長 網野 浩義

ただいま紹介いただきました網野と申します。本日は、障害者の就職状況と傾向についてということでお時間をいただき、まことにありがとうございます。

当社は、イフ総合研究所、イフと申しまして、今から17年前に障害者支援事業に着手しまして、後にもご紹介いたしますが、就職情報誌「サーナ」を発行しております。また、合同企業面談会と就職情報サイトを企画運営しております。今ご紹介にもありましたが、その中で私は、大学、各種団体を中心にイフグループの活動の理解と促進、合同企業面談会の企画運営、また情報サイトの標準企画と設計のほうを中心に行っております。

本日はお時間をいただきまして、障害者の就職活動の進め方と、企業の状況、働く現場のほうをご紹介させていただきます。

参考になればと少し資料を多めにご用意しておりますので、少し早く進めてまいりますのでご了承ください。本日はよろしく願いいたします。

資料といたしまして、今回皆さんのお手元に2部資料が行っております。1つは8枚つづりの資料、それから参考資料といたしまして2枚つづりの資料になっております。

最初に、こちらの8枚のほうを見ながら進めていただければと思います。

まず目次といたしまして、イフ総合研究所、イフについて、当社の支援活動の状況とウェブサーナ、サーナ、フェスタについて。

また、障害のある学生の就職活動の進め方についてということで、現在の雇用率、また就職活動の流れということで、こちらのほうは毎年1回、新卒の求職者の方にアンケートを行っておりまして、そちらをまとめているところからご報告させていただきます。

続きまして、障害者の採用に積極的な企業ということで、業種別雇用状況、こちらのほうは当社の情報サイト「ウェブサーナ」より集計したものを報告いたします。

また、働く現場ということで、先輩社員の働く現場、仕事内容についてということで、こちらのほうは就職情報誌の「サーナ」から説明させていただきます。

また最後に、参考資料といたしまして、障害内容についてということで、こちらは等級であるとか障害の種類について特徴をまとめた資料と、先輩・人事にクローズアップということで参考資料をご用意させていただきました。本日は、最後の参考資料についてはご紹介しませんが、ご参考になればと思いますので、ご自宅に帰ってからも構いませんのでご一読いただければと存じます。

それでは、3ページ目に進ませていただきます。

イフの障害者支援活動ということで、イフ総合研究所並びに株式会社は、ご紹介にもありましたが、1992年、民間で初めて障害者支援事業に着手しております。現在では、障害者のための就職情報誌「サーナ」を創刊しております。近年、企業の障害者雇用に関する理解が深まり、雇用実績率は年々増加傾向にあるものの、まだ民間企業としては法定雇用率1.8%には到達しておりません。

こうした状況を打開するためにも、イフグループは、就職情報誌「サーナ」をはじめ、インターネットを利用した障害者の就職、転職総合サイト「ウェブサーナ」や、企業と求職者が直接コミュニケーションを図る出会いの場として、合同企業面談会「サーナ就職フェスタ」等のサービスを提供して、障害者の就業機会の拡大を目指しております。

下のほうには、イフグループの沿革を書かせていただいております。

1点、申し訳ございません。誤植がございまして、下から2番目になりますが、1992年3月と5月の部分、順番が入れ違いになっていまして、「サーナ」の創刊が1992年3月、イフ総合研究所の設立が5月になっております。申し訳ございません。

続きまして、4ページ目になりますが、当社の活動内容ということで、各商品をご紹介させていただきます。

まず、就職情報誌「ウェブサーナ」ですが、こちらは就職情報サイト、一般の就職情報サイトのリクナビと同様の就職情報サイトとなっております。内容としましては、OB、OGの情報であるとか、職場環境の紹介、人事から求める人材像など、さまざまな紹介ページと検索機能を備えた情報サイトとなっております。こちらが右側にある写真のようなサイトとなっております。

利用者に関しましては、実会員登録としまして6万2000名、これまでの掲載企業としては

約700社以上を掲載しております。

続きまして、「サーナ」ですが、こちらが「サーナ」の情報誌になっております。就職活動の時期によって年3回発行しております、春、秋、冬の3号を発行しております。こちらの発行部数は6万部、ボリュームのある情報誌になっております。内容に関しましては、企業情報のページはもちろんあるのですが、それ以外にも、特集記事として、学校や障害者支援を行っているセンターの支援状況であるとか、先輩メッセージ等のご紹介をしております。こちらは障害者の方であれば、登録していただいて、無料で配布しております。

本日、少しではありますが、30冊ぐらい持ってきておりますので、もし講演が終了しましてからご希望の方がございましたら私のほうにお声かけいただければと思っております。

続きまして、障害者のサーナ就職フェスタということで、合同企業面談会があります。こちらは関東エリアということで東京で年に7回、関西エリアで大阪で5回、東海のほうで名古屋で3回、九州のほうで年2回ということで、合計で年17回、開催をしております。

就職イベントとしては面談会があるのですが、それ以外にも、就活講座、OB・OGのパネルディスカッション、人事からのメッセージ、また就職情報の相談コーナーを設けておりまして、面談会以外のイベントもあるということから大変人気があるイベントになっております。

最後に、障害学生の就職白書ということで、活動白書を発行しております。こちらは年に1回、ページ数としては50から60ページぐらいのものになっておりまして、後にもご紹介をしていきますが、毎年新卒の学生さんにアンケートを取りまして、そちらをまとめて、全国の大学、短大の就職課に配布させていただいております。

以上をもちましてイフグループの活動の紹介を終了させていただきます。

それでは本題に入ります。まずこのページでは障害者の雇用状況がどうなっているのかというところで、厚生労働省の資料がありますので、こちらのほうから発表させていただきます。

こちらの資料に関しましては平成20年6月1日時点ということで、厚生労働省が情報をアンケートしておりまして、民間企業の法定雇用率の発表をしております。こちらは11月20日に発表になっておりまして、現時点では1.59%になっております。グラフでいうと一番右、2008年のところで1.59%というのが法定雇用率の状況になっております。

参考としましては、国では、国や地方の公共団体におきましては法定雇用率が2.1%となっておりまして、国の機関では実雇用率に関しては2.18%、都道府県に関しては2.44%、市町村に関しては2.3%という形で、いずれも達成している状況です。民間企業に関しましては1.59%ということで、少し少ない数字なのですが、実際に雇用されている数に関しては、32万5000人、前年度よりも2万3000人増加しております。

障害別に行きますと、身体障害者に関しては26万6000人、知的障害者に関しては5万3000人、精神障害者に関しては6000人という形で、若干ですが、徐々に上がっている状況になっております。

続きまして、当社のまとめております白書から、アンケートをしておりますので、昨年度のアンケートは今年の2008年1月にしております、次のアンケートは実は10月から11月までアンケートをいたしました。こちらは最終的に白書を発行するのは来年になるのですが、最新のニュースということで、09年卒の今4年生の方の白書のためにということでアンケートをさせていただいている情報をまとめておりますので、一部情報公開をさせていただきたいと思っております。

こちらは対象者が全国の825名の障害者の方からアンケートを取らせていただいております。

今回の説明としまして、まず就職活動の流れというところで、求職者の障害者の方に就職活動を行っていた時期はいつですかという質問を最初に投げかけさせていただきました。その上で、企業のエントリー時期と説明会の参加時期はいつですか。それに対しまして、企業さんのほうにもアンケートを取っております、準備不足と感じた点は何ですか。それに対して、求職者の方に就職活動を振り返ってどうですかと。企業の方に選考で重視した点はどんなことですか。最後に求職者の方に困った点はどうかという形でアンケートを取っておりますので、こちらをご報告させていただきたいと思っております。

まずは1番目の質問ですが、就職活動を行っていた時期はいつですかという質問です。これはこの下の表になりますが、その月に全体のうち何%の方が就職活動をしていたのかというものになっております。注目すべき点としましては、前年度、2007年の10月が23.6%ということで、徐々に就職活動が始まっていく形になります。ピーク時期に関しましては4月から5月になりますが、ピークで62.7%という形で、大学生の6割以上の方が就職活動をしているという状況になっております。

学所別にいきますと、大学院が右になりますが、5月がピークで46.2%、大学と短大は4月、専門の方は2年生ということもあって遅くなってはいるのですが、7月から9月ぐらいがピークで6割ぐらいの方が就職活動をされているという状況になっております。

後にも出てくるのですが、10月、11月から活動をした学生さんのほうが、やはりより広い活動ができたということで報告をいただいております。

続きまして、7ページに行きます。こちらはまず企業へのエントリー時期ということで、左のグラフ、社数のほうは下のほうにございます。

右側のほうに、会社説明会に参加した時期と、左の下に参加者数をまとめた表になっております。数字はいずれも大学のほうを基準にこのように記述させていただいております。

いずれも企業エントリーのピークは、11月から12月が数が多くなってきていまして、2月、3月、4月というのがエントリー時期に関しましてはピークになってきております。左下の表ですが、エントリー社数ということで、まず1社から4社、エントリーした人はどのぐらいか。次に5社から9社、次に10社から19社という形で順に区分けしておりますが、エントリーに関してやはり多いのが、いずれの学所に関しても1社から19社の中でエントリーされているのが比較的多い状況になっています。

これを見ると全体的に少ないのではないかなと感じるところもあると思いますが、実は一番下に50から200社という形でエントリーしている方がいらっしゃいまして、多い方ですと50社、100社、200社という形で企業エントリーをされている方がいらっしゃいます。

同様に、会社説明会のほうも同じように区分けしていますが、やはり多いのは1社から19社ぐらいという形になっておりまして、平均的にどうなのかという形ですと、右下の数値になっておりますが、07年卒の方は20.3社、翌年が20.5社、今年は少し増えていまして22.1社という形になっています。

会社説明会に関しては若干少ない形なのですが、11.3社から12.5社、今年ちょっと減っておりまして11.6社という形になっています。

このようにエントリーや説明会に参加した中で、企業の人事はどのように不足を感じているのかというアンケートをまとめておりますので、次のページをごらんいただければと思います。

こちらは本年度の障害者採用に当たって応募者が準備不足と思われる点はありませんかという質問です。左側のほうが新卒の方、新卒採用として不足を感じた点、右側が中途採用ということで感じた点をまとめております。

いずれに関しましても、まず一番大きく挙げた点が企業研究ということで、約6割ぐらいの結果となっています。実は昨年度も同じようにアンケートを取っておりまして、やはり第1番目に不足という形で感じていると挙げられております。

続きまして、自己分析、志望動機というところが不足というふうに企業さんのほうは考えられているようです。

学生さんのほうに関しまして、企業研究が満足にできましたかという質問をしたのですが、回答としては「いいえ」と答えられた方が62.6%いらっしゃいました。約3分の2の方は企業研究というのが自分では満足できていないということで、内容のほうですが、理解度が浅かった、開始時期が遅かった、どこから就職活動をすればいいのかわからなかったというのが上位のほうに上がってきております。

このような中で、活動時期を少し早めに取りながら、自分で何をしたらいいのか、例えば情報サイトや情報誌からどのようにしたらいいのかというものを取り入れて就職活動をしていく必要があるのではないかと考えております。

続きまして、企業の方に、選考の段階で、こちらのほうは合否の基準ということになりますので、その中でもポイントのほうを企業に回答していただきました。

選考で重視する点ということで、まず1番多く挙げられたのがコミュニケーション能力というところで、新卒の09年卒に関しては65%ということで、重要なのではないかと企業さんのほうの回答がありました。

続きまして面接の試験結果というところで、約4割といったところが重要だというふうに企業さんのほうは考えられているようです。

あと重要な点というので、誠実さ、行動力・実行力、理解力・判断力といったところで挙がっておりまして、あとは仕事に対する熱意であるとか、就業意識の高さ、将来の可能性、入社意欲といったものが挙がっております。

障害の内容に関しましては、09年卒では約2割の会社が重要ではないかと考えられているようです。

この統計から見ますと、話す力、聞く力というものもありますが、先ほどの就職活動の時期というところで、自己分析であるとか志望動機といったものがしっかりと固まっていないと話す内容も薄くなってしまって、コミュニケーション能力が低いのではないかというふうに企業さんのほうは感じられているのではないかという形で考えております。

最後に、求職者の学生さんの方にアンケートを取っているのは、就職活動の方法について困ったことはありますかということで、実に4分の3、75.1%が何かしら困っているという状況になっております。

内容としましては、自己分析の仕方であるとか、履歴書の書き方、面接の準備の仕方といったものが上位のほうに上がってきております。当社としましては、「サーナ」であるとか「フェスタ」の中で活動の方法のページであるとか、相談コーナーといったものを設けておりますので、こういった部分においてぜひご相談をされてはいかがかなと考えております。

とりまとめます、就職活動の進め方というのは、大体10月ぐらいから始めておまして、大体50社ぐらいエントリーしていると。その中で、企業研究や自己分析が不足しているのではないかとこのところが重要なポイントになってきております。

続きまして、当社の就職情報サイト「ウェブサーナ」から、2008年度における募集企業から集計しております。まず、勤務地別を集計しております。都道府県別で北海道から沖縄、海外まで募集している企業さんの情報を載せております。

やはり数として多くなっているのが、当社が東京本社ということもありまして、数はかなり多い形、特に東京都は多い形になっております。広島県に関しては17.6%ということで若干少ないように思われますが、今後、強化という形で活動してまいりたいと考えております。

順位としましては、全体的に東京を含めた1都3県が最も多いという状況で、次に関西、その次に東海、九州という形で募集の勤務地割合が多くなっております。

続きまして、雇用実績という形で右側に集計しております。障害別の雇用実績が最も多いのは下肢障害という形で89%になっております。これは一般的に企業ではパソコンの使用を必須とした業務

の募集がとても多い形になっておりますが、移動の配慮を行うことで支障がなく働くことができるというところで下肢障害が最も多くなっていると推測されます。

同様に、作業スピードの配慮を行いながら、上肢の障害であるとか、健康面の配慮をすることから心臓や腎臓障害といった内部障害の雇用も実績としては多い形になっております。

また、視覚障害に関しましては、機器の導入であるとか、聴覚障害には電話対応、もしくは社内の連絡方法の配慮を行いながら積極的に採用しているといった企業もございます。ただ、こちらのほうはあくまでも雇用した実績のある企業というところで集計しておりますので、今後、新たな障害内容での雇用を検討している企業も多くございます。

続きまして、業種、職種別に関してまとめております。上の段が業種の分類になっております。

まず左側が大分類ということで、当社の「ウェブサーナ」の検索になっておりまして、その中で詳細の業種の区分けがございます。こちらの統計に関しましては弊社の分類になっておりますので、特に厚生労働省などの外部の分類とはいくつか異なっておりますが、そちらはご了承ください。

こういった中で、当社の企業の中で最も参加が多いのはメーカーという形になっております。約3分の1近くの企業がメーカーとなっております。大手の企業の参加も多くて、幅広い職種、地域の雇用が可能になっていることから、募集も多くなっているという状況です。

雇用実績に関しましては全国的に出しておりませんが、雇用に力を入れている情報系であるとか、サービス系といったものが次に多くなっているという状況です。

一方、流通系に関しましては、参加が比較的多くありません。雇用率に対しては決して高くないという状況なのですが、従業者の数多くが接客であるとか販売、営業といった職種になりますので、どうしても企業事情というものがあがり、広く募集を行っていくということが現状できていないのですが、こちらのほうは今後の課題というふうに受け止めております。

下のほうになりますが、募集職種の割合になります。

大きく分類として5つの分類に分けております。事務職と技術職、営業・販売、専門、その他という分類に分かれております。

募集が最も多いのはやはり事務職関連という形になっております。事務職の中でも一般職、総合職といったものがありますが、特に総合職のほうが新卒募集では多いというふうに感じられます。

職種としましては、一般事務、営業事務が69.5%、その次に人事、総務といったものが63.3%、次に経理、財務という形で、特に人事の目の行き届くところの職種が比較的多い形になっております。

技術職に関しては、内訳としてはシステムエンジニアであるとか、研究開発といったものが若干多いと感じられます。

以上が業種、職種のほうの集計のご報告になります。

最後に、働く現場ということで、当社を使いまして募集している企業さんのある1社の人事のメッセージと先輩メッセージがございますので、ぜひご紹介をさせていただければと思います。

こちらの企業は、特に社名のほうは申しませんが、情報ソフトウェア系ということで、東京の江東区にある、従業員が約5400名というところで、雇用実績に関しては、上肢、下肢、体幹、視覚、聴覚、言語、心臓、腎臓など幅広く募集をしております。

特に新卒募集ということで、総合職になりますがシステムエンジニアとテクニカルエンジニア、コーポレートスタッフなどを募集したり、あとは執務職ということで一般事務のほうを募集している企業さんでございます。

こちらの企業さんでは現在50名ほど障害者の方が在籍しておりまして、システムエンジニア、一般事務が多いのですが、さまざまな障害のある方が活躍しております。障害のサポートに応じて体制のほうは整っておりまして、勤務地によっても異なりますが、スロープや階段等も充実して、障害者専用のトイレであるとか、手すり付きのエレベーターといった施設に加えて、看護師も待機している会社になりまして、健康管理センターも設備されております。

ハード面以外に関しても、ソフト面でもチャットサーバであるとか、音声読み上げソフトなど障害に応じた対応もしております。

この企業に関しましては、人事考課や報酬などは健常者と全く基準が同じ形になっておりまして、査定等に関しても昇格のチャンスは健常者と障害者が平等になっているという会社になっております。そのため、スキルアップのための教育制度が整っておりまして、それ以外にも、手話通訳などのフォローもあるという企業さんでございます。

こちらに入られた先輩メッセージということで、下のほうにあるのですが、こちらは聴覚障害者の方からのメッセージになります。この方は特にコミュニケーション能力に自信がない方でしたが、入

社間もないころは自分はどうなるのかなという不安を持っていたということです。

人事の方に打ち明けて話されたところ、人事の方からの回答は、障害のことではなくて、あなた自身が会社の中で力を発揮できるのではないかとこのころで判断したためにあなたを採用しましたという話をいただいたそうです。

自分に自信を得ることができたということで、実際に現在の部署に配属になってからも、電話対応は聴覚障害のためにできないのですが、基本的にすべて平等。皆さんと同じ仕事をされています。

配属後、研修を行ったということで、実はコミュニケーションを取るのにしり込みしがちな方だったのですが、研修の場ではコミュニケーションを取らなければいけないということで、上司の方から、聞こえないのは仕方のないことではないかと開き直るぐらいの気持ちでやりなさいというアドバイスをされて、この方は非常に勇気が出たと申しております。メールをはじめ、さまざまな方法でコミュニケーションを取る努力をした結果、会議の議事録であるとか司会も経験しておいたほうがいいということで、積極的にやったということで、研修終了後、上司の方から返事をもらって、大変よい、よく頑張ったということで、感激したということで、この人自身も大変やりがいであるとか、会社の中で前向きな気持ちを持って仕事をされているというメッセージをいただいております。

右側のほうに写真がありますが、この企業は、例えばスロープであるとか、バリアフリーで段差のない入り口であるとか、エレベーターに関しては車いす用の押しボタンつきであるとか、下のほうに健康管理センターの写真も掲載しております。

こういった障害者の方も働かれている様子です。

続きまして、13ページには、それ以外の方ということで、東芝、楽天、デンソーの中で幸田製作所で働かれている障害者の方のメッセージがあるのですが、こちらのほうはぜひ後で参考にさせていただければと考えております。

この後は参考資料になります。2ページにわたりますが、障害の種類、等級別に見た障害の特徴ということで、こちらのほうは1級から6級まで等級別に分けて障害の内容を書かせていただいております。

2枚目になりますが、知的障害に関しましては特に等級ではなくて、最重度、重度、中度、軽度という形で挙げさせていただいております。精神障害に関しては1級から3級です。

最後に、別紙ですが、富士通とNTTコミュニケーションズとNTTデータ、最後にNECとキャンノンマーケティングジャパンで、先輩のメッセージであるとか人事からのメッセージということで、過去の「サーナ」に載せている部分で抜粋した資料をご用意させていただいておりますので、ぜひごらんいただければと思います。

以上で、障害学生の就職状況と傾向についてということで報告をさせていただきました。イフとしまして、今後も就職情報誌、サイト、合同企業面談会などを通じて、学生求職者と企業の橋渡しとして拡大のほうに努めていきたいと考えております。民間企業ということもありまして大変力不足の取り組みも多々あると思いますが、皆様のご指導とご協力をよろしくお願いいたします。

短い時間ではございましたが、ご清聴ありがとうございました。